**オール松江市で行こう！**

**SDGsシンポジウム2024～はじめの一歩は、わたしの一歩～**

**【第二部　議事録】**

1. **ユネスコスクールの取り組み発表**
* **１7秒　司会**

ただいまから第2部を開始いたします。第2部ははじめにユネスコスクールの取り組みについて、松江市内の2校にご発表いただきます。ユネスコスクールとは、1953年、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現し、平和や国際的な連携を学校での実践を通じて促進することを目的に設けられました。

2013年12月現在、日本国内では1090校の就学前教育、保育施設、小学校中学校高等学校および教員養成系大学等がユネスコスクールとして様々な活動をしています。はじめに学校法人松徳学院中学校高等学校のみなさんの発表です。みなさんよろしくお願いします。発表のタイトルは、「海のために今できること」発表者はめつぎりょうたさんと小村 陽菜さんです。ご準備はいいでしょうか。それでは松徳学院中学校高等学校のみなさんよろしくお願いいたします。

* **1分50秒　松徳学院中学校高等学校**

これから私たち松徳学院が水の都松江市の一員として、今年度取り組んできたことを紹介していきます。私は、松徳学院高等学校1年のおむらはるなです。私は松徳学院中学校3年生のめつぎりょうたです。よろしくお願いします。私たち松徳学院は、水の都松江の一員として4年前から環境学習に力を入れています。水の保全および賢明で持続的な利用をテーマに活動しています。これはSDGsの目標の中では11番の住み続けられるまちづくりと14番の海の豊かさを守ろうに当たります。

主な活動としては、地域の川の水質調査やごみ拾い、水草刈りなどの活動を行っています。この活動が認められ、今年度から晴れてユネスコスクールの一員となることができました。地域の川は海へとつながり、海は世界へとつながっています。

地域の川を大切にすることは、地球全体を大切にする活動であると信じ、私たちは活動を続けています。私たちの活動場所は主に白潟天満宮横の天神川、西校横の山居川、姉妹校交流のため研修旅行で行ったフィリピンの川です。

まず最初に天神川での活動を紹介します。自然再生センターさんのご協力で、中学校1年生は天神川の水草刈りをしています。そして、刈った後の水草は、自然再生センターの畑で肥料にしています。今年度は上定市長も参加してくださいました。

こちらの写真は自然再生センターさんの畑の様子です。私たち高校1年生がこちらの畑で中学生が採った水草を肥料に育てるサツマイモの苗植えと収穫のお手伝いをさせていただきました。サツマイモの苗植えの際に肥料として水草をまくエリアとまかないエリアに分けて収穫しました。

そのサツマイモを比較してみると、水草を撒いた方のサツマイモの方が実が大きかったと感じました。この活動を通して、環境を保全する活動でも、新たなごみは生まれてしまうということです。それをいかに有効活用するかが大切だということを学びました。

また、需要と供給のバランスのために連携をしっかり取るという自然再生センターさんの活動を見習っていきたいです。続いて山居川での活動について紹介します。私たちは中学生を中心に松徳学院近くを流れる山居川でも、水質調査やゴミ拾いを行ってきました。

そこで、山居川のほとりを人気の散歩コースにしたい。地域の方の憩いの場にしたいという思いから、ベンチと花壇の設置活動を始めました。写真はベンチの材料となる木を里山を育てる会の皆様と一緒に伐採している様子です。

今の高校1年生が中学3年生の頃から行ってきたこの活動は先月、ついにベンチの設置が完了しました。写真は里山から切り取ったヒノキの木で作られたベンチです。最後にフィリピンの川について紹介します。研修旅行で行ったフィリピンでも水質調査を行いました。

こちらの写真は、フィリピンのデッドリバーと呼ばれる生物が住めないとされる川の写真です。私たちはデットリバーではないアラワン側でも水質調査を行いました。CODは8以上で有機物がとても多いことが分かります。川の様子としては緑色で濁っていて、綺麗とは言い難かったです。

水中から何かの生き物が呼吸をしているようでした。これらの活動は里山を育てる会、乃木公民館、自然再生センター、竪町かっぱ隊、花つくり会、島根大学生物資源科学部の皆様のご協力で行うことができ、感謝しています。これからも地域の活動を通して地球の環境を良くすることに努めていきます。

海外への研修旅行など松徳学院だからこそできる調査も引き続き行っていきたいです。これで発表を終わります。ありがとうございました。

* **8分28秒　司会**

松徳学院中学校高等学校のみなさんどうもありがとうございました。続いて松江市立皆美が丘女子高等学校のみなさんの発表です。どうぞ準備をお願いいたします。発表タイトルはエイズについて出張講座。発表者は西田 里緒さん、芹沢 友里さん、藤原 彩菜さん、阪本 華帆さんです。ご準備は大丈夫でしょうか。ありがとうございます。それでは、松江市立皆美が丘女子高等学校のみなさんよろしくお願いいたします。

* **9分27秒　松江市立皆美が丘女子高等学校**

こんにちは、松江市立皆美が丘女子高校生徒会執行部の西田,芹澤,藤原,阪本です。よろしくお願いします

皆美が丘女子高校生徒会執行部は、エイズに関する正しい知識を広め、エイズに対する偏見や差別をなくす活動を1996年から30年近く行っています。この活動は国連が掲げたSDGsの17の目標の3番目。誰もが健康で幸せな生活を送れるようにするという目標と、10番目人や国の不平等をなくそうを達成するための活動でもあります。

今日はこの場をお借りして、みなさんにもエイズに関する講座を聞いてもらい、理解を深めてもらいたいと思います。それでは、まずエイズとHIVについて説明します。エイズの「A」は「acquired」後天性。後天性とは生まれた後に身についたものであるということです。「I」は「immune」免疫。「D」は「deficiency」不全。免疫が不全であるというのは、体の中に入った菌やウイルスなどから自分自身の体を守る機能が完全ではないということです。そして、「S」は「syndrome」症候群。症候群とはいろいろな病気が集まったもののことです。このように後天性免疫不全症候群のことをこれら「acquired」、「immune」、『deficiency』、「syndrome」の頭文字からAIDSと表現します。

次にHIVについてです。「H」「human」人。「I」は「Immune-deficiency」免疫不全。「V」は「virus」ウイルス。このようにヒト免疫不全ウイルスのことをこれら「human」「Immune-deficiency」「virus」の頭文字からAIDSと表現します。つまり、エイズは病気の名前で、HIVはエイズの原因となるウイルスのことです。

人間の体の中には、ヘルパーT細胞というものと免疫というものがあります。ヘルパーT細胞とは、風邪などのウイルスが体の中に入ってきた時、免疫にそのウイルスを捕まえてやっつけるよう指令を出す細胞のことです。そして、免疫がその指令に従うことによって、人間の体は守られているのです。

しかし、HIVは他のウイルスとは違い、はじめにヘルパーT細胞を攻撃し、免疫への指令を出させなくしてしまいます。すると体内に風邪などのウイルスが入ってきても、免疫はヘルパーT細胞からの指令がないので、上手に戦うことができません。

このようにHIVに感染することによって、免疫がウイルスと戦えなくなることにより、いろいろな病気にかかってしまうのがエイズという病気です。次に感染経路について説明します。HIVには性感染、血液感染、母子感染の3つの感染経路があります。このうち最も多いのが性的接触による感染です。

性的接触による感染を防ぐために、私たちは2つのことを提案します。1つ目はコンドームを使用することです。これでほぼ確実に感染を防ぐことができます。2つ目は、HIVに感染しているかどうか検査をすることです。HIV検査は保健所または医療機関で行うことができます。

保健所では匿名、無料で受けることができ、二十歳未満の人でも保護者の許可は必要ありません。もしHIVに感染していた場合は、保健所が病院を紹介してくれるので、その後の治療に関して相談することもできます。感染したと思われる日から3カ月以上が経っていれば正しい結果を得ることができます。

検査を受け、自分が感染しているかどうか正確の結果を知ることで、他の人への感染を防ぐことができるのです。次に、世界のエイズの状況について説明します。これは世界のHIV感染者の数です。およそ3,840万人のHIV感染者が報告されています。

この図を見てください。世界で最もHIV感染者が多いのはサハラ以南のアフリカです。サハラ以南のアフリカのHIV感染者、エイズの患者の数は、世界の約60%以上を占めています。なぜ、サハラ以南のアフリカには、HIV感染者、エイズ患者が多いのでしょう。

その原因の一つとして、貧困が深く関わっていると考えられます。サハラ以南のアフリカの国にはお金がないため、日々の食事もままならず、学校に行けない子供たちがたくさんいるのです。このような状況下では、HIVへの感染を防ぐコンドームを買うことができません。

さらに、学校に行けない子供たちはエイズについての正しい知識を得ることができないため、多くの人がエイズにかかってしまうのです。では、学校に行けない子供たちはいつも何をしているのでしょうか。子供たちは生きていくために働きます。親が働くだけではお金が足りないため、彼らは大人と同じように働かされているのです。

みなさんは児童労働という言葉を聞いたことがありますか。児童労働とは、義務教育を妨げる労働や18歳未満の危険で有害な労働のことです。IOCが公表している児童労働の現状によれば、2016年時点で5歳から17歳の児童労働者数は1億5,200万人とされています。

これは世界の子供の10人に1人が児童労働をしているということです。子供たちの仕事の内容は大きく分けて3つあります。1つ目はカカオなどを育てている農業関係の仕事です。農薬を素手で触るので、健康を害する危険な仕事です。

2つ目は、ガラス工場などの工業関係の仕事です。危険な機械や薬を使うので、取り返しのつかない重大な事故につながる可能性があります。そして、3つ目はさらに厳しい仕事です。子供たち自身が売られたり、危険な薬を作ったり、運んだりという犯罪までさせられます。

また、兵士となり、銃を持ち戦争に連れて行かれることもあります。このような国にも児童労働を取り締まる法律はありますが、十分な管理が行われていないことにより、児童労働はなくなっていないのが現状です。彼らは長時間働かされ、休憩もなく食べ物ももらえません。ですが、彼らが1日中働いてもらえる給料は平均約20円から100円です。

児童労働が理由で苦しんでいる子供たちを救うために私たちにできることはあるのでしょうか。その一つの提案としてフェアトレードという取り組みがあります。フェアトレードとは、商品を労働や費用の負担に見合った適正な価格で取引することです。安すぎる賃金で働くことにならないように、適正な価格で商品を売ります。

多くの人がこのフェアトレード商品を買うことで、労働者にきちんとお金が渡りお金がなくて苦しんでいる人々の助けになることができます。フェアトレードの商品は、チョコレートやコーヒーがよく知られていますが、紅茶やスパイス、蜂蜜、布製品などもたくさん売られています。

このマークは、フェアトレード商品であることを表すマークです。フェアトレード商品は、普通の商品よりも少し高いです。しかし、私たちのより安い商品を買いたいという考えも、児童労働がなくならない原因の一つなのです。児童労働で苦しんでいる子供たちのために、フェアトレード商品を買ってみませんか。

私たちにできることは、こんなに身近にあってすぐに行動できるということをみなさんにも知って欲しいです。最後に世界エイズデーについて説明します。世界エイズデーとは、世界規模でのエイズの蔓延防止、エイズ患者やHIV感染者に対する差別や偏見の解消を目的とするために、WHOが1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

皆美が丘女子高校生徒会執行部も毎年12月1日には本校のエイズ啓発活動に賛同していただいている、国際ソロプチミスト松江の方や松江保健所の方と共に勉強会と松江駅周辺でエイズ啓発活動を行っています。松江市立皆美が丘女子高校生徒会執行部は、様々な活動を通してエイズに関する知識、理解を広めていきたいと思っています。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

* **18分55秒　司会**

松江市立皆美が丘女子高等学校のみなさん、どうもありがとうございました。以上、ユネスコスクールの取り組み発表、　松徳学院中学校高等学校、松江市立皆美が丘女子高等学校のみなさんでした。発表どうもありがとうございました。

1. **パネルディスカッション『「水の都」とSDGs』**
* **19分24秒　司会**

本日のパネルディスカッションの登壇者をご紹介いたします。先程ご講演いただきました。村上芽（めぐむ）さんです。松江市のSDGsアドバイザー、サスティナビリティ・アドバイザーをお務めいただいております。法政大学デザイン工学部建築学科　川久保 俊教授です。先ほど発表されました。松徳学院高等学校のみなさん、松江市立皆美が丘会女子高等学校のみなさんです。

松江市長 上定 昭仁です。そして司会進行は、松江市のSDGsアドバイザー市民パートナーシップアドバイザーをお務めいただいております。島根大学大学院教育学研究科 松本 一郎教授です。

本日のパネルディスカッションのテーマは『「水の都」とSDGs』です。ここから、マイクを松本先生にお渡しいたします。松本先生どうぞよろしくお願いいたします。

* **20分50秒　松本アドバイザー**

みなさん、まだ午前中ですので、おはようございます。これからですね。ここから松本進行役でこの場が盛り上がるように努めてまいります。

本日のテーマですね。3つ用意しています。水の都のイメージ1つ目。2つ目は水の都に期待されることは何かなっていうこと。3つ目はSDGsをまちづくりに生かすコツっていうことで、この3つについてみなさんに聞いていきたいと思います。それでは、本日のテーマ松江の特徴、「水の都のSDGs」ですが、「水の都」と聞いてどうしても宍道湖・中海・日本海というような自然環境分野をイメージする人が多いんだと思います。

みなさん、水の都松江と聞いて、どのようなイメージがあるでしょうかということで、軽くウオーミングアップからいってみたいと思います。では、川久保アドバイザーからいってみましょうか。

* **21分54秒　川久保アドバイザー**

はい、私がですね、松江に来たのは10年ぐらい前が初めてだったと思うんですけど、その時はですね。友人が松江に住んでたということもあって、ちょっと友人を訪ねてきたんですが、やっぱりその時に初めてこう宍道湖に浮かぶ夕日を見て何と綺麗なんだろうというふうにちょっと思ってですね。もうこうすごく感動したのを覚えています。やっぱりこの水の都ならではで、そこから採れるシジミのお味噌汁を夜にいただいてですね。おいしいなと思ってですね。環境の豊かさっていうのをその時にすごく感じてですね。素晴らしいところだなというふうに思ったのが10年前でした。今回このようなお仕事をいただいて、いま頻繁に来るようになってですね。改めて今松江の豊かさっていうのを日々感じております。

こういうところに住めていいなというふうに、心の底から思います。東京にいるとなかなか水っていうのと水辺からかなり距離ができちゃうんですね。その水との距離が短いって言うんすかね近いっていうか、いわゆる親水性が高いって言うんですけども、それがやっぱり松江の特徴だなっていうふうに思っていてですね、これはすごく実は恵まれているということを、市民のみなさんがどれぐらい実感されているかわからないですけど、東京にいるともうまさにそれを来るたびに痛感しています。

* **23分11秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。川久保アドバイザーとはですね。今後もサステナブルに一緒にこの松江でいろんなことをやりたいなと思っています。

ありがとうございます。続きまして、村上先生今日はご講演ありがとうございます。とても勉強になったと思います。松江は20年ぶりと聞いていますが、そのあたりも含めていかがでしょうか。

* **23分33秒　村上氏**

ありがとうございます。私もそうなんです。22年ぶり以上に20年前、お友達を訪ねてきたんですけども、実は今回、行きは空港から来たので、宍道湖ってこんなに広いんだと思ってそれを実感しました。

あとですね、その宍道湖・中海・日本海というふうに大きい海のイメージがまず最初はあったんですけれども、お城の周りの遊覧船がすごくみなさんにとっても身近になる可能性もあるし、観光客の方にとっても、これからこうバスのようにこう巡る旅として何かゆったりした時間を使うような可能性が凄くあるというのを伺っています。

実際にあの、電動化されたものに昨日乗せていただいたところ、本当にあの鳥が逃げなくてすぐ静かなので、そこに見えるというのも凄く新しい経験で本当に身近なところに水があるんだなととすごく綺麗だったのにびっくりしました。綺麗というのは水ももちろんなんですけども、その周りのおうちの民家のところも裏庭に当たるようなところもすごく綺麗にされていて

みんなの目に触れる場所で綺麗にしようっていうのが染み渡ってるんだなというふうに思いました。

* **24分57秒　松本アドバイザー**

はいありがとうございます。20年ぶりということで、本当に水の都ということを感じられているのかなと思いました。ありがとうございます。それではですね。緊張してると思うけど、さっきの発表で生徒さんみなさんウォーミングアップすんだと思います。

松徳学院高校さんから若い人の印象、イメージ。水辺を含めたSDGsにまつわる学習経験。先ほど発表されました。こんなことしたいとかですね。色々な自由な意見でいいので、お話しいただけたらと思います。お願いします。

* **25分41秒　松徳学院中学校高等学校**

私も松江市民じゃなくて、毎日出雲から学校に通ってるんですけど、やっぱり宍道湖、出雲からこう松江に電車で来る際に毎日宍道湖すごい綺麗で、何か心を動かされる自然が身近にあるってすごいいいなと思って、この学習を通してそれをやっぱりずっと

この心動かされる綺麗な自然を守っていけたらなと思っております。

* **26分16秒　松本アドバイザー**

はいありがとうございます。もうちょっと時間がありますよ。いかがですか。

* **26分24秒　松徳学院中学校高等学校**

僕は中学校1年生の時に川を綺麗にするために、実際に川に入って水草を刈ったんですけど、とても楽しかったことを覚えています。

* **26分40秒　松本アドバイザー**

はいありがとうございます。私松本もですね。色んなことを覚えてます。40年以上前、私10代の後半、島根大学にいたんですけれども、今お二人が言ってくれたように、心を動かす景色がここにあるので、なので私も松江に戻ってきています。

それでは、次に皆美が丘女子高さんよろしくお願いします。どなたでもいいです。

* **27分15秒　松江市立皆美が丘女子高等学校**

私は小学生の頃に釣りとか水質調査とか、松江の水を使った授業があったので、そういったところで松江の水を身近に感じたことがあります。

* **27分31秒　松本アドバイザー**

そうですよね。ウオーターフロントど真ん中ですよね。ありがとうございます。あと、みなさん誰かしゃべりたい人いたら。

* **27分43秒　松江市立皆美が丘女子高等学校**

私も中学2年生の時に松江に引っ越してきて、初めて宍道湖の景色を見た時にすごい綺麗だなと思って住んでるとこにないような景色だったので、すごい覚えてます。

* **28分02秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。他のみなさんどうですか。二人で大丈夫かな。またしゃべりたくなったら声かけてくださいね。はい。私もですね。松江にずっと住んでいる人は良さに気付いていないかもしれません。いま松江の外から来たって言ってくれました。

やはり住んでいる人、そして外から来る人が合わさって、松江の街のいいところを見ていればなと、話を聞いて思いました。それでは、市長さんは今のみなさんのお話を聞いて短く感想をお願いします。

* **28分40秒　上定市長**

みなさんありがとうございます。私は子供の頃からここで育ってるんですけど、宍道湖はですね。すごく綺麗な湖だなというふうには思ってたんですけど、あんまり自分が遊んだ記憶はないんですよ。松が生えてて、写真撮るには絵はがきにするにはすごく綺麗で川久保先生おっしゃったとおり、夕日も綺麗でっていうのはあったんですけど。もっと遊べるんじゃないかなというふうに思ってる面があります。

今の大橋川の拡幅工事というのをやっててですね。中海と宍道湖を繋いでいる川ですけどね。その拡幅に合わせて川街づくりっていうですね。街づくり自体を水辺のにぎわいが出てくるような、そういうふうな作り方にしたいなと思ってるのと、、もう1つは宍道湖にこう気軽に降りて、色々ちゃぷちゃぷ遊べるような場所をができないかっていうので、実際、いまホテル一畑の南側に千鳥南公園というのがあるんですけど、そのあたりをちょっと綺麗にして今工事中なんですけどね。

遊べるようにしたいと思ってるんですね。なので水の都っていうのが何か概念的なものだけではなくて、みなさんが実際、こう見て感じていただけるものであったり、我々の親しみとか愛着とか誇りとかの対象になるようなすごい近い存在。川久保先生おっしゃっていただいた水に親しむ親水空間になるような場所になればいいなと思います。

* **30分01秒　松本アドバイザー**

はいありがとうございます。親水空間。なにかこう染みてきますね。心にですね。ありがとうございます。それでは2つ目のテーマ水の都に期待されることっていうことで、ここは大人のみなさんに聞きます。安心してください。大人のみなさん、それでは水の都に何を期待するのか、何を思い描くのか何か高校生のみなさんにも聞きたいなと思いつ川久保アドバイザーからいってみたいと思います。

* **30分32秒　川久保アドバイザー**

水の都って多分昔からですね。やっぱりこう人類の歴史上、やはりすごく発展する場所なんですね。よくよく振り返ってみると、みなさんのこう多分小学校中学校で学んだと思うんです。いわゆる4大文明とかユーフラテス川、ナイル川、黄河とか。インダス川とか、そういったものも全てやっぱり親水空間の近くで生活が営まれてたということを考えると、やはりもうここはもう昔から非常にそういう意味でいうと、土地的にも豊かな場所だったんだろうなと。

だからこそ、やっぱりここが歴史上ですね。日本の中でもすごく重要な場所だったんだろうということが推察されます。SDGsの観点から見た時に、もうやっぱりここの環境というのは非常に重要で、こういう豊かな環境があって、初めてその上にこういわゆる堅牢な社会基盤ができて、さらにその上で強い経済が成り立っていくというふうに、こうSDGsの世界ではよく言われるんですけども、やっぱりその豊かな環境というのを守り続けてきたからこそ、今こういった。その松江の繁栄があるんだろうと思いますし、ここを逆に忘れてしまうととんでもないことになるということで、これからその脱炭素とかですね。

生物多様性とか今いろいろ世の中言われてますけども、逆にいうと、ここはすごく松江にとってチャンスだと思うんですね。この脱炭素で今脱炭素先行地域になったと思いますし、あれはそういう水辺空間のCO2を吸収するっていう側面もあったりしますし、生物多様性の拠点にもなってるわけで、今世の中がこう叫んでいる取り組まないといけないっていうところの最前線に立てるポテンシャルっていうのをもう既にお持ちなので、これをいかに活用し、この環境首都であるこの松江の魅力をPRしていくか、そういったところが重要なのかなっていうふうに思って、色々みなさまの取り組みを拝見させていただいております。素晴らしい取り組みがたくさんなので、ぜひPRしていただきたいなといつも思っています。

* **32分25秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。PR大事ですよね。私たち島根県民松江市民はですね。なかなかPRが上手ではないような気がしております。

* **32分35秒　川久保アドバイザー**

上手ではなくて謙虚なんだと。

* **32分38秒　松本アドバイザー**

言葉を間違えました。そうですよね。はい、ありがとうございます。それでは、村上先生。主に企業の活動や経営の面からっていう視点でこの期待されることを述べていただければ嬉しいです。

* **32分54秒　村上氏**

ありがとうございます。どんな企業が尊敬されるのかっていうことが明確に変わり始めてきているのかなというふうに思います。というのは、企業ってやっぱり儲けることお金を回していくことを仕事を使って金がぐるぐる回って行くことのすごく重要な担い手なんですけども、短期的にお金が儲かればいいんだって言うだけじゃないよねっていう。一番儲かればいいんだっていうだけじゃなくて、そこじゃなくてもっと町のためとか環境のため綺麗な水のためとか、その水と親しむ空間のためとか、そこに対して貢献している企業が本当にこう長い目で尊敬されて人も集まる時代になったのかなということを、これはもしかすると都会の方ではより危機感が強くなってきているのかもしれないんですけれども、そういうの先行していく主体としてすごく期待したいなというふうに思っています。

* **34分02秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。地域経済、ローカルSDGsっていうことでしょうか。川久保先生にまた後で聞いてみようかなと思いつつ、この水の都に期待されることは何かについては高校生のみなさんにはふらないよと言いつつですね。会場から何かご指名があります。よろしいですか。はい読み上げます。高校生のみなさんへ将来、あなた方が松江のまちで豊かに暮らしていく上で、何が必要で何が大切だと思いますか。漠然とした質問ですいません、一応全文読み上げました。はい。何がこう豊かに暮らしていく上で大切だと思いますかっていうことで、それではさっきの順番でいきましょうか。

松徳学院さんからどうぞ。

* **34分58秒　松徳学院中学校高等学校**

やっぱり水の都として、これからなかなか人が島根県減ってるので、これからそこを宣伝してやっぱもうちょっと大声で声を上げてこっち来てみたいな。もっと人を集める材料としてこう水がいいですよみたいなことやっていけたらすごいいいと思います。

* **35分29秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。先ほどアピールっていう話がありましたけど、松江の良さを感じたみなさんだからこそ発信できるのかなと今聞いてて思いました。ありがとうございます。では、皆美が丘女子高の方。ちょっと時間の関係で代表一人だけ今回お願いします。

* **35分48秒　松江市立皆美が丘女子高等学校**

水の都って言われてるのは、やっぱり中海や宍道湖などの魅力をもっと周りの人に伝えれたらその宍道湖などを大切にしていこうという人達が増えていくんじゃないかなって思います。

* **36分10秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。やはり魅力を発信するここの良さはみんな分かってっていうことを高校生さんなりに感じられてるのかなと。私は今聞いてて思いました。それでは市長にいきます。市長は海外生活が長かったと思いますが、今の松江と比較してどうですかっていうところで。

* **36分30秒　上定市長**

そうですね。必ずしも海外だからどうこうってことでもないんですけど、ただ海外の目線をもってしても、この地形っていうのはすごく珍しいところで、みなさんご存知かもしれませんが、島根半島の一帯というのは、宍道湖も中海を含めて島根半島宍道湖中海ジオパークっていうの指定されてるんですね。

全国で50ぐらい指定されてる地域がある、すごく風光明媚ですごく自然環境が豊かな場所なんですけど、実は全国のジオパークの中で、これだけ伝統や歴史や文化があるところってないんですよね。その2つが組み合わさっているところ、地形的なすごく利があったので、古くから2000年前の弥生時代から人が住み、はじめて出雲大社ができて。

っていうことだと思うんですけど、日本だけではなくて、そもそも世界でも誇れるような場所なんだっていうことを自覚したいなと思うんですよね。特に高校生のみなさんはここで生まれ育ちながら、そういう自覚が芽生えればいいな。私は実は高校生の時までは島根は何もないなと思ってて、何でもある都会に行きたいなって思うのを原動力に机に向かってたんで、でも離れてすぐ分かったんですけどね。ここにしかないものってとても沢山あるなと。自然環境だけじゃなくて、人の良さなんかもこう離れてみて分かった部分は多々ありました。

先程から川久保先生からPRが大事と言っていただき、松徳のみなさんからは大声で宣伝しようと言ってもらって。実際にですね。その水の都ってことを含めて、松江の良さをアピールしていくのは、これは私の使命として市民のみなさんにも当然、国内海外問わず観光客のみなさんにも発信していきたいんですね。

身近な取り組みとして最近始めたのは、実はですね。村上先生が言っていただいた堀川遊覧船電動化については、この4月から平日でも誰でも乗れるようになります。去年の8月からちょっと実験やってたんで、市民のみなさんにも乗っていただいていたんですが、4月からは本当に誰でも乗れるようになるので、ぜひこう、静さをですね実感していただいて、江戸時代に松江城ができた当初から掘割っていうのが変わってないので、江戸時代にてこぎしてたのと全く同じ風情が味わえるんですね。市民のみなさんにもぜひ一度乗っていただきたいです。それとあの川久保先生が最初にシジミの話をしていただきましたけど、これもよく言われてた話でシジミが特産なのは分かるけど、しじみ汁どこで飲めるのっていう風に特に県外の方から聞かれるんですよね。我々朝ご飯から普通にしじみ汁飲んでますけど。その時に、居酒屋の最後の締めでは出てきますよとかですね。ホテルに泊まったら朝ご飯で多分食べれると思うんですけどしか言えなかったんですよ。それを去年の3月からゴールデンウイークまでの限定で、松江城の横の方の大手前駐車場っていうところに「チャッテ」っていうテイクアウト専用の喫茶があるんですけど、そこで2種類しじみ汁の赤味噌と白味噌の、要はスターバックスのようなですね。これですぐ手軽に飲めるものを売り出しました。そしたら、それがすごく人気で、今でもずっとやってます。もう一つはついこの間12月からですね。島根県立美術館ていうのが宍道湖のほとりにありますけど、そこの1階のラシーヌっていうフランス料理屋さんでしじみのクラムチャウダーのスープを売り出しました。650円です。非常においしいので、是非ちょっと一度味わっていただいてしじみってやっぱりいいなと。松江の魅力だなというふうにみなさんにも分かっていただけるとありがたいです。

* **40分04秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。私20年間、しじみのクラムチャウダーを言い続けて実現したんですね。はい、嬉しいかぎりです。みなさんもどうぞということで最後3つ目ですね。SDGsをまちづくりに生かすコツですね。さっきの質問と少し似ていますが、今度の順番はですね。皆美が丘女子高さんから松徳、そして村上先生、川久保アドバイザー、市長の順番でいきたいと思います。その前にSDGsはですね。分かりにくいとかあんまり効果が見えにくいとか言われています。

今日、村上先生がこれぐらい進んでるよっていう世界の状況、日本の状況を見せてくれましたが、まあ失敗事例もたくさんあるのかなと思います。そういう成功や失敗をいかに次につなげるか、そこから学べることは何か。失敗事例からの学び、そんなこともイメージしながらSDGsのまちづくりを活かすコツちょっと難しい質問です。

これが必要だみたいなことをですね、それでは皆美が丘女子高からいってみたいと思います。

* **41分15秒　松江市立皆美が丘女子高等学校**

私たちの学校では、松江学という地域課題解決型の学習があるんですけども、その課題として人口減少や少子高齢化が進んでいて、その人口減少や少子高齢化を止めるために、松江市は子育てがしやすいということが有名なので、それを生かしてIターンやUターンを知ってもらえるように、松江市内でこの子育てがしやすい政策やサービスが必要なのかなって思いました。

* **41分56秒　松本アドバイザー**

ありがとうございます。やはり子育てっていうことで、市長に何かこう。メッセージがあったような気がします。ありがとうございます。それでは松徳さんお願いします。

* **42分11秒　松徳学院中学校高等学校**

若い人が積極的に取り組むことが大事だと思うので、上の世代に限らず、若い方も積極的にSDGsに協力していければいいと思っています。

* **42分34秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。若い人というのが子育てもそうでしたが、今キーワードになっていましたね。小学校や中学校の教科書に今SDGsが掲載されるようになりました。実は、私も教科書を書いていますが、SDGsの項目書いてるんですよ。また見てください。

次に大人のみなさんにいきたいと思うんですが、それでは村上先生なんですが、企業経営を専門にこうやられていたり、SDGsの生かし方、いろんなところでご講演されてると思いますで、また子育てっていうところでもお詳しいと聞いていますしたので、そういう部分からそういう立場でお聞きできたらと思います。

よろしくお願いします。

* **43分20秒　村上氏**

ありがとうございます。いろんな人の意見が混ざるような環境を意図的に作っていくっていうのが結構大事かなというふうに思います。これはですね。企業にお仕事の時でもあとまあ、学校生活とかやっぱり今自分がいる。

あと、子育て中の人はその今の自分がいる環境の中で、やっぱり日々で過ごしてしまうし、それが普通だと思うんですけども、そんな中でやっぱり時々こう全然違う意見の人と交わる機会というのを持つことを意識する。これは多分企業経営にとっても新しいこうアイデアの源になったりとか、そういう意見の人もいるんだということがですね。

やっぱりいろんな気づきになるということだと思いますし、純粋に交流が広がるということにもなると思います。子育ての観点もやっぱりこう私自身はずいぶん昔になってしまいましたけども、やっぱこう1日中ちっちゃい子と二人でいると、何か全然今日日本語喋った気がしないとか、そんな気持ちになってしまう。

そういうのがなければないほどやっぱり楽になる部分があるのかなと思うので、何て言うかって子育てって結構ですね。常識が5年ぐらいでころころ変わって、自分の母親世代に聞いても何かこうしなきゃっていうのが違ったりするっていうのが、今また違うのが増えてると思うんですけども、何かこうこうじゃなきゃっていうのをちょっと緩める。

お母さんの時代はそうだったけど、私達もこうで、もうもう5年先にはそれも変わってるかもしれないけどってちょっとこう緩めて考えるっていうのもすごく大事なのかなと。色んな情報が今すごく簡単に手に入るようになって支援の仕組みも充実されていると聞くんですけども、それを使う側としてはやっぱりリラックスしてそれを受けてあげるというのも大事かなというふうに思います。

* **45分16秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。やはり子育て、ジェンダーともかかわって、最近ではパパ休、育休のお父さんが増えてきてる。非常にそこは流れがいいけど、もっと加速しないとさっきの先生が見せてくれた。グラフを見ると、全然駄目ですね。頑張らなくちゃと思いまして。ありがとうございます。それでは川久保先生ですが、川久保先生はですね。みなさんもご存知かな。国の委員や自治体のアドバイザーをいくつかされています。そういう経験から行政施策っていう観点で効率的なSDGsの活かし方、ちょっと難しいですよね。お願いします。

* **45分56秒　川久保アドバイザー**

効率的かっていうところはちょっとさておき、うまくいってるところとうまくいってないところのいろいろ分析をさせていただいたことはありまして、SDGs未来都市で今実は182もあるんです。この松江も含めてですね。今またさらに30都市出てくるってことで、210都市ぐらいまで増える予定なんですけども、その今182既に選ばれてる自治体さんの取り組みっていうのは、実はいろんな学会のいろんな研究者たちはいろいろ研究しています。それによるとですね、

うまくいってるところとうまくいってないところでいろいろ要因が見えてきました。うまくいってるところっていうのはですね。やっぱりパートナーシップを大事にしているということがわかっています。どういうことかというとですね。例えば、松江市さんでもMATSUE DREAMS 2030ってことで、2030年に向けてこういうまちづくりをしたいっていうのを描かれてると思うんすけど、ああいうビジョンとかですね、

我々がこういう町づくりしたいんだっていうのを、いわゆる市役所の方だけで作ってる自治体とかですね。一番より良くないのは、コンサルティング会社さんに丸投げをするみたいなとこもあったりするんです。あの自治体によってはですね。そういうところをやっぱり汗をかいてないです。

自分たちで考えていないっていうので、きれいなものは出来上がったんですけど、なかなかそれがこう地域に生かされてないというところがあります。一方でうまくいってるところっていうのはそのビジョンづくりとか街の方向性を作る段階からいろんな方々の意見。地元の企業のみなさまだったりとか、次世代を担う若い学生のみなさんの意見であったりとか、一般の市民の方々であったりとか、もちろん行政の庁内の意見とか、いろんな方々の意見を聞きながら、一緒にこうみんながわくわくするようなビジョンを掲げて、それに向かってみんなで向かっていこうっていうようなことができてるところっていうのは非常にうまくいってるような気がしています。未来都市に選ばれたから、よりうまく行き始めてるとこっていうのは大体そういう特徴があるということでありますので、このMATSUE DREAMS 2030というのとSDGsが目指している。目標年の2030年ってのはぴったり符合しますし、たぶん目指してるところっていうか。軌を一にしてると思いますので、そういったところを大事にしていくことが重要かなというふうに思いました。あとはやっぱり、先程ですね。基調講演の中で村上先生も発言されてますけど、楽しむっていうことが重要だと思います。

やっぱりこう楽しいことでないとこうサステナビリティーがないといいますか続かないと思いますので、みんながやっぱりわくわくしながら、これは楽しいなと自分ができるところから、そういうところから続けていくことが重要かなと思いました。今日実はですね。先程皆美が丘女子校さんのほうで松江学あれすごくいいと思うんですよ。やっぱりこう自分たちの地域をこう改めて見てみようと、自分たちのとこではこんな場所はあったんだ。こういう理想があったんだっていう。その再発見するプロセスってすごく重要だなと思いました。あと、松徳学園さんの今日の発表の中でですね、

川の水質調べられてますよね。あれ実は私、すごい感動しました。実は私も中学校3年生の時に地元の川である鶴見川とか、日本でワースト1位の汚れてる川だったので、それで問題意識を持って全く同じにBOD、CODを測ってですね。

こういうのを良くしていきたいなっていう思いから環境工学を研究したいなと思って今研究者になっていてですね。やっぱりそういう何かこう身近なところから関心を持って、それでこう世の中に何か自分ができることないかなっていう風に考え続ける。みんながですね。一人一人がです。私はこのゴールに貢献で、私はこのゴールに貢献できるというのを一人一人が考えていくことができて、それが地域に広がっていけばいいものになっていくのかなっていうふうに思ってます。

最後にSDGsはやっぱりパートナーシップです。巻き込み力が重要だと思ってるんで、行政のお題として私のいただいたお題は行政としてどうすればいいかっていう話だったので、やっぱり行政としては未来へのビジョンを描き、みんながこの市内だけじゃなくて、市外の関係者も含めて巻き込んでいって松江に移り住んだら新しいことができそうだと色々なことができそうだというふうに思っていただければ、移住者も増えるでしょうし、また一回東京とか関西とか出てた方々はまた戻ってきたいという風になるでしょうし、そういうのが重要なのかなっていうふうに思って聞いておりました。

* **5０分01秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございました。ビジョンが大事。そして今の言葉は何かどこを取っても大事かなと思いました。ありがとうございます。ここで会場からですね。時間のことも気にしながら、村上先生と川久保先生に質問が来てます。簡単に答えてもらうと思いつつポイントは一つです。

企業がSDGsの商品やサービスを作る際のコツを教えてください。あっさりした質問ですが、はい、じゃあ村上先生から。

* **50分33秒　村上氏**

はい、ありがとうございます。それを使ってもらうお客さんなんですよね。使った人がどんなふうに使うのかで、それで使った後どうなるのかっていうところまで。そこまで分からないよっていうケースも結構あるとは思うんですけど、それどこまで分かる努力をできるか、そういうのを分かりたいっていうのをそのお客さんなり、その関係者の方に言っていくというのがわりと大事かなというふうに思います。そうすると効果もわかるし、何か仲間づくりにもなるかなと思います。

* **51分04秒　松本アドバイザー**

ありがとうございます。では、川久保先生。

* **51分09秒　川久保アドバイザー**

機能価値っていう言葉なんですけど、こう要はサービスとかですね。物に対してこういう価値があると。例えば私大好きなお菓子にキットカットってあるんですけど、キットカットって一時期ですね。

売り上げが低迷したんですよね。あれはすごいおいしいと思うんですけども、売り上げ低迷したんです。その後すごい、ある方の取り組みで売り上げは戻ったんですけど、何かご存知ですか。皆様。受験の時にきっと勝つよっていう願掛けの形で想いを乗せたんです。人々のですね。こういうふうにあってほしいとか。受験生の子、自分の子供にですね。このキットカットをこう忍ばせて、これで頑張っておいでっていうふうに。そういうふうな、その自分たちの想いを乗せるっていうんですかね。そのサービスとか、その製品に我々はこういう想いでやってますっていうのが伝わると、それに賛同してくれる方々がですね

それの購入とかに利用してくれるということに繋がっていくというふうにも言われています。こういうのってちょっとSDGs的かなと思ったので、私はそういう風にするといいんじゃないかなと思ったので、発言させていただきました。

* **52分12秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。この回50分もらっていて、ちょっと始まりが遅くなったので、12時ちょっと超えるところまでみなさんお付き合いください。高校生のみなさん、もう終わったかなと思いつつ、会場からですね。

これも聞いてみたい。SDGsを勉強して、自分の考えや行動が変わったと思うところがありますかっていう質問。もう1つ、大人に期待することは何ですかってあるんですが、ちょっと長くなりそうなので、すいません。みなさんが変わったと思うことがあれば、代表で1人、2人お願いします。

それでは皆美が丘女子高校の方から。何か変わったこと。先に、分かりました。譲り合いの末に、じゃあ、松徳さん。思いついたらぱっと言ってもらって結構ですよ。

* **53分15秒　松徳学院中学校高等学校**

そうですね。私、松徳に入学するまで全然この宍道湖とか水質とかにあんまり興味がなくて、何か川流れてるなって感じだったんですけど、この松徳入ってみて、私が中学1年生で入学した年から始まったんですね。この環境学習が。それをやってきて、この最初に習ったことが、川とか湖とかもう全部つながってるんだよってことを最初に教えられて、あぁ、そうかぁと思って。もうそれからやっぱり川を見ると、この川汚いなとか。ここの川綺麗だなとか思うようになって。そこに関心がもてるようになったことが1番かなって思ってます。

* **54分03秒　松本アドバイザー**

ありがとうございます。はさんばっていう器具を持って水草を刈るんですよ。希望者は天神川に飛び込むんですねと飛び込むっていうかこう草を刈るんです。本当に一生懸命やられてると思います。認定NPO法人自然再生センターさんありがとうございます。って感じですよね。それでは皆美が丘女子高さん。

* **54分28秒　松江市立皆美が丘女子高等学校**

私たちは女子校なので、ジェンダー平等について考える機会が多いんですけど、その中でこういう男女平等が叫ばれている時代に女子高がある意味って、この世の中の女性たちの声を若い私たちが拾い上げて世の中に発信していくっていうことだと思うので、そういうやっぱり恵まれてない女の子たちのことも考えて、女性の声を世にていきたいなっていう意識を持ちました。

* **55分05秒　松本アドバイザー**

ありがとうございます。たぶん気持ちをさらに強くしたっていうことがみなさん見てとれたのかなと思います。本当にうれしい気持ちになりました。それでは、市長のほうに移るんですが、SDGsの視点をまちづくりに生かすっていうことをね。色々言われています。素敵なことが多いんですが、市民のみなさんに伝えたいことっていうのを再度よろしくお願いします。

* **55分26秒　上定市長**

今日、高校生のみなさんからいろいろこうふるさとに対する思いを聞いたのは、わたしとても刺激になりましたね。みなさんと共有したいことばかりだったんですけど、例えば、先程の川でこうつながってるって宍道湖も中海も実は斐伊川水系っていう川の一部なんですよね。斐伊川ってのは上流をたどると飯南町とか雲南市とか奥出雲町とかに行くんですよ。実は昔からこの斐伊川って暴れ川で昭和47年に大洪水があってですね

このあたりも松江駅前も浸っちゃったんですよ。ちなみにその頃、私は母親のおなかの中にいるんですけど。なので見てはないんですが、その時の反省を踏まえてというか、それをもう一回起こしてはいけないということで、ダムの建設をしたり、放水路の建設をしてるんですよ。ダムってみなさんね御存じのとおり町を潰さなきゃできないんですよね。

尾原ダムとか志津見ダムっていうのが実際にできてるんですけど、恩恵は我々が受けてるんですよ。それはつまり川がこうて流れていくから、下流の方も上流のみなさんが犠牲を払ってそうやって譲ってくださったことに感謝しなくちゃいけないっていうので、私結構実はその飯南町とか雲南市とか出かけてですね。お祭りなんかも出てちょっと感謝の気持ちを述べたりもしてるんですよ。

そういった繋がりが、先ほど出ている色んな人をこう巻き込んでいくとか、あるいは多様な人との接点を持っていくっていうところに繋がっていくきっかけに大きくなっていくと思うんですね。SDGsって17も切り口があってで、その17番目でパートナーですよね。

パートナーシップっていうのが一番重要だっていうふうに全体を包含する概念としてあると思うんですね。最近、アメリカなんかだとSDGsって言葉も使われますけど、D＆Iっていうふうによく言われてダイバーシティーアンドインクルージョンって言うんですよね。ダイバーシティーは多様性ですよね。インクルーシブってよく言いますけど、巻き込むっていうことも一つあると思うんですね。そういった形で進められるように、SDGsをうまく活用していきたいなというふうに思ってまして、今日のみなさんがこう出していただいたお話もそうなんですけど、行政だけでこう考えて総合計画を押しつけるっていうものでは全くなくて、総合計画も実際たくさんの方に関わっていただきましたし、それをみんなで共有していくことで初めていろんな価値が実現できていくと思うんですよね。

SDGsという切り口でもって多分みなさん共感できることがたくさんあると思うので、それを具体的な取り組みに一歩踏み出していくと理念的なものじゃなくて、実際に行動に移して良かったな楽しいなと感じられるような取り組みをこれからも重ねていきたいなというふうに思います。

* **58分24秒　松本アドバイザー**

はい、ありがとうございます。ますます何かこう楽しくなってきましたというか、やっぱり楽しくないと続かないっていうことだと思います。ありがとうございます。最後は私が少しまとめると言うか、まとめるって言ったらおこがましいですが、やはり今、市長が言われた。その巻き込む、SDGsの中には包摂的っていう言葉があるんです。

ちょっと専門的なんですが、社会を持続させるために誰一人取り残さないっていう意味なんです。この言葉の意味はSDGsの理念、誰一人取り残さない都会も地方もということだと思います。もう一つキーワードがあって、レジリエンスっていう言葉がカタカナであります。

これは強靱性だとか。復元する力っていう意味なんですが、つまりこの世の中見てるとですね。自然災害があります。家族を失います。いろんなつらいことが多いです。世の中生きていくとつらいことが多いんですが、それに耐えて打ち勝つ付き合っていくってことだと思うんですね。これをレジリエンスって言うんです。私、この会場の締めとして包摂的、誰一人取り残さないって言う言葉とレジリエンス。この世の中っていろんなことが渦巻いて生活しにくいと感じることも多いですが、このSDGsをキーワードにうまく乗り越えていけたらなと思います。松江市に住んでる方、そしていろんな場所で今日来られているみなさんがおられます。

関係人口という言葉もありますので、お互いにつながりあって人口が減っていく。日本社会。島根県松江市もそうかもしれません。そうだと思います。さらに、気持ちを強くする必要があるかなと思います。

この週末あと3日するとですね。国連はフランスはパリにあるユネスコ本部を訪れます。SDGsやESDという言葉、世界遺産やジオパークに関する情報交換をしたり、今日のこのシンポジウムの内容もローカルSDGsとしてユネスコ本部に伝えてまいります。そして新たなことがあれば、またみなさんと情報共有したいと思ってます。

最後になりましたが、本日のこのディスカッションを通じてご来場のみなさんと様々なことに気づいて、また新たな気持ちで明日から今日から進んでいけたらと思います。登壇者のみなさん、そして質問をくださったみなさん、来場者のみなさん、すべての人にありがとうと言って、この会を締めたいと思います。

今日はみなさん、こういうその天候の悪い中、足元の悪い中、集まっていただきありがとうございました。ありがとうございました。

* **1時間1分30秒　司会**

みなさま、ありがとうございました。先生方からもですが、高校生のみなさんから今の思いやこれからの課題解決が伺えてとても嬉しかったです。松本先生、パネラーのみなさま思いのこもったディスカッションどうもありがとうございました。今一度大きな拍手をお願いいたします。それでは本日のシンポジウム、ステージイベントみなさんいかがだったでしょうか。先生方もどうもありがとうございます。どうぞご降段くださいませ。ご紹介が最後になりましたが、本日このステージを華やかに飾ってくれました。こちらのお花。サイネリアは松江農林高校生物生産科のみなさまが育てられたお花です。また、展示エリアの小中学生の取り組み紹介コーナーの飾りは、島根県立大学松江キャンパス人間文化学部の福井先生と福井ゼミのみなさんがより楽しい展示になるよう協力してくださいました。

沢山の方に関わっていただき、本日のシンポジウムを開催することができております。みなさまありがとうございます。以上を持ちまして、オール松江市でいこうSDGsシンポジウム2024。はじめの一歩は、私の一歩のステージイベントを終了させていただきます。みなさま、本日はどうもありがとうございました。

以上